CRTD植え込み例の「いつ除細動が作動するか」のストレスを携帯型心電計によって軽減できた例

ゆみのハートクリニック渋谷　鮫島 光博 院長

症 例

症　例：50歳代、男性
主　訴：動悸
既往歴：拡張型心筋症、心室頻拍にて両心室ペーシング機能付埋込型除細動器（CRTD）を植え込み
現病歴：重症心不全管理にて訪問診療中

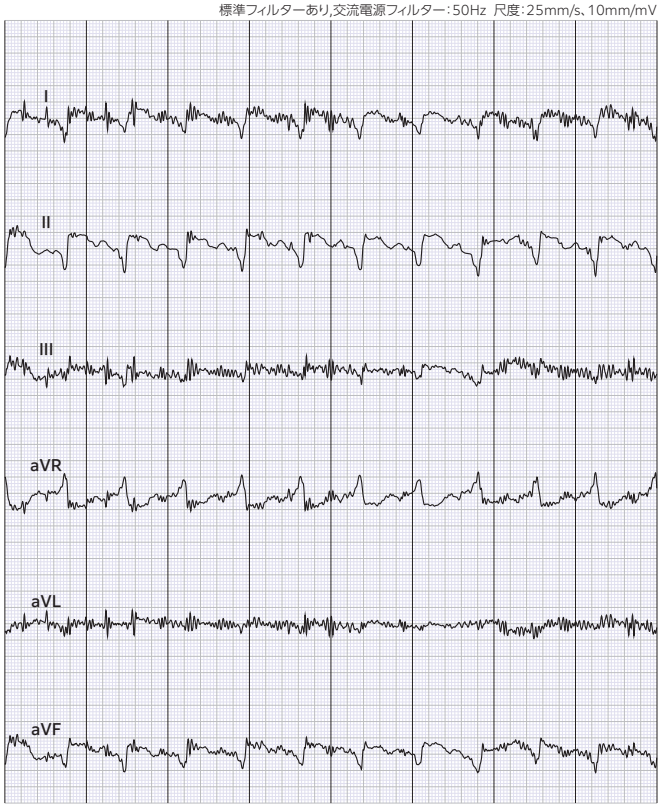
携帯型心電計の使用

患者さんは左室駆出率17%、NYHA3の拡張型心筋症を基礎疾患とした重症心不全かつ心室頻拍にて両心室ペーシング機能付埋込型除細動器（CRTD）が植え込まれている。これまでに除細動器頻回作動を経験しており、ショック作動した際に、心身ともに大きなダメージを受けていて、「次はいつショック作動があるか」が、ストレスになっていた。

診察時にも「頻繁に動悸がある」と話すことがあり不安を抱えていたが、CRTDの遠隔モニタリングで得られた心電図波形からは特に異常は認められないこともあった。『今回は不整脈は検出されなかった』の説明だけではなく、実際に異常がないことをご自身で確かめることができれば安心するのではないか」と考え、オムロンヘルスケア社製携帯型心電計の貸し出しを提案したところ、患者さんも積極的に受け入れた。患者さんは不整脈についてある程度理解しており、携帯型心電計の操作方法も容易に習得している。

患者さんには「1日1回程度、または症状が出現したら記録してください」と伝えており、結果として39日間で40回記録された。携帯型心電計に記録された心電図波形はCRTDで調節された特徴的な波形であることから、解析結果の内訳は「解析できません」が23回、「分類できません」が9回、「心房細動の可能性」が8回であった。

患者さん自身も心電図波形の意味を理解しているわけではなかったが、それでも除細動が作動する危険な不整脈（心室頻拍）が起きているわけではないことを確認できたことで安心感を得ている。2022年12月現在は心臓の状態が安定していることもあり、精神的にも落ち着いて生活できている。



解析結果：心房細動の可能性

考 察

CRTD植え込み患者さんが動悸を自覚し、「いつ除細動が作動するか」がストレスになっていたが、有症状時に自身で携帯型心電計によって心電図波形を記録して確認することで不安が軽減された1例である。医師が有症状時に記録された心電図波形を見て「これであれば心配ない」とアドバイスできたことで安心感につながったと考えている。